

### 太陽

日	赤 經	赤 緯	視直徑	星 座
(29)	10時26分40秒	北9度45分	31分44秒	しし
8	11時 2分55秒	北6度 6分	31分48秒	しし
18	11時38分51秒	北2度17分	31分53秒	しし
28	12時14分47秒	南1度36分	31分58秒	をとめ

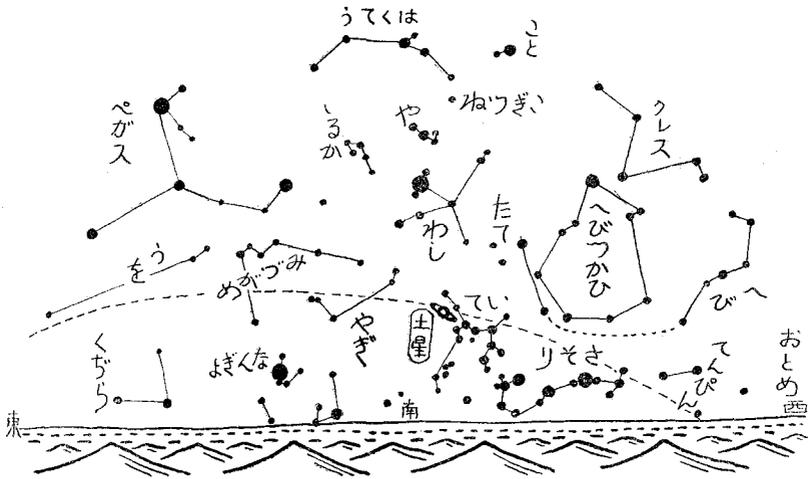
太陽は、月始めは處女宮にあるが、二十四日に天秤宮に侵入する。日の出は一日は五時二十九分、十一日五時三十六分、二十一日五時四十三分、來月一日五時五十一分。日の入りは一日は六時二十五分、十一日六時十一分、二十一日五時五十七分、來月一日は五時四十三分。二十四日に太陽は秋分點を通過する。十二日には部分日蝕がある。見える所はベリング海峽とその兩岸の僅かの地方であつて勿論日本からは見えない。

### 月

月の相	時 刻	視直徑	星 座
下 弦	5日午後 4時21分	30分35秒	うし
新月(日食)	12日午後 1時26分	33分22秒	しし
上 弦	19日午前 5時37分	31分10秒	いて
満月(月食)	27日午前 4時45分	29分25秒	うを
近地點通過	13日午前 2時24分	33分24秒	をとめ
遠地點通過	27日午前11時42分	29分25秒	うを
降交點通過	13日午後 4時18分	33分21秒	をとめ
昇交點通過	27日午前 4時18分	29分25秒	うを

月の出は一日午後八時十七分、八日午前〇時二十四分、十五日午前八時五十七分、二十二日午後三時五十二分、二十九日午後六時四十七分。月の入りは、一日午前八時五十六分、八日午後三時四十八分、十五日午後七時五十一分、二十二日午前一時零分、二十九日午前七時四十七分。

二十七日に皆既月食がある。食の始まりは午前二時五十四分、皆既の始まりは午前四時五分、食甚午前四時四十八分、皆既の終り午前五時三十分、食の終り午前六時四十二分。吾國より十分に、見る事が出来る。



## 遊星界

**水星** 月始めは太陽に近く、五日には太陽と内合となるが、十四日に留となり、後順行となる。二十一日には、既に西方最大離角18度となつて、暁の東天に光度零等として輝やく。其の時の位置は、「しし」座のほぼ中央で順行中であり、視直径は7秒其の後、更らに順行を續けて、月末には、「しし」座の東端まで進む。

**金星** 太陽に近く、八日には太陽と外合となるので、今月は観望出来ぬ。

**火星** 宵の西天の星であるが、太陽に近くなるので、今月位ひが最後で以後暫らくは見られない。位置は「おとめ」スピカ星の近くから、同座東端まで順行、視直径4秒、光度2等、

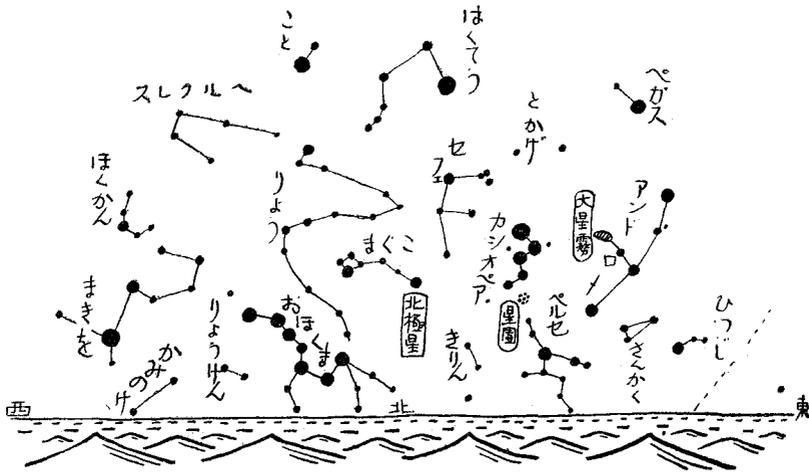
**木星** 暁の東天に負1等半の光度で輝きかき「座」中央から東端まで順行する。視直径は30秒餘、今後は次第に観望に適する様になる。

**土星** 今月も尚ほ、観望の時期と言へる、宵の南天「いて」座の東部にあつて、徐々に逆行中であつたが二十二日に留となり、以後順行に移る。光度0.6等、視直径16秒。輪の長軸は40秒、短軸は16秒半。輪の傾斜角は24度半。

**天王星** 夜半後の出現。「う」座エプシロン星の東。光度6等、視直径2秒

**海王星** 「しし」座 $\rho$ 1星に近いが、太陽に近いので観望困難。

**冥王星** 「ふたご」座にありて、暁の東天に在る。光度15等。



恒星界

秋になつたとは言へ、残暑はまだ凌ぎ難い。併し又た、  
 其れ丈けに、涼みがてらに星を愛づるも一興である。  
 銀河が略々南北に流れて、「ペルセ」, 「さんかく」, 「ひつじ」等  
 久々振りに、宵の空に顔を出す様になつて來た。  
 「はくてう」が天頂に近く座を占めて、「カシオペア」や、  
 「セフェ」なども、次第に高くなつて來た。  
 「アンドロメダ」も東北の空に高くかゝつて。  
 美しい大星霧も、そろそろ見頃になる。  
 東天には「ベガス」, 「うを」, 更らに「くぢら」も見え始め、  
 銀河を差し挟んで、「こと」と「わし」とは天頂に近い。  
 「てんびん」, 「まきを」, 「りようけん」などは西に低く、  
 北斗も北の地平に可なり低くなつて來た。  
 南方にはまだ「さそり」が頑張つて、お隣りの、  
 「いて」座には土星が、美しい輪を誇り、  
 更らに、「やぎ」, 「みづがめ」等が南天に並んで、  
 フォマルホウトが意勢よく顔を現はす。